

## 平成29年度 特別支援専門部活動報告

### <ゆきわり養護学校の実践について>

#### レポートタイトル「作業学習 紙製品班 ポップアップカードの製作」

##### 1 実践にあたって

本校高等部重複障がい学級では、週8時間の作業学習を行っている。17名の生徒が、布製品の班と紙製品の班に分かれて活動している。本報告は、紙製品の班の実践報告である。牛乳パックをリサイクルすることで環境への貢献を学習するとともに、紙を漉く工程や紙を折る、切る等の工程では生徒に適した道具を工夫することで自信を持って作業にとりくめるようにしたいと考えた。

##### 2 活動より

- (1) パルプを細かくする工程を生徒Aが担当した。シュレッダーを使って行った。牛乳パックでガイドを作ると紙の挿入がスムーズになった。一人でできることから仕事に興味と自信を持ち、仕事を続けられた。
- (2) 紙を漉く工程を生徒Bが担当した。当初は厚く不均一な紙になったが、自分の手の可動域にあった道具を使うことで薄く均一な紙を漉くことができ意欲を持つようになった。はがきサイズの紙だけでなく、大きなサイズもきれいに漉くことができるようになった。
- (3) 紙を切る工程の生徒Cはポップアップカードのデザインと裁断を担当した。片手が不自由だが、マウスで絵を描いてレーザーカッターのデータを作成することができた。用紙のセットやパラメータの打ち込み方を覚えレーザーカッターの操作にも習熟した。
- (4) 紙を折る工程を生徒Dが担当した。当初は手で折ったが、折り目の位置がずれたりきれいに折り目が入れられなかったりした。そこで、ミシン用のモーターで動く紙折り機を作り、使い方を指導したところ強く関心を示して機械を使った紙折りができるようになった。

##### 3 まとめ

この実践を行うことで、今まで教師の手を借りて作業していた生徒が、自分一人でも仕事ができることに気づくことができた。また、道具を使いこなすことに満足を感じ、作業学習の時間が待ち遠しいと話す生徒が増えた。

### <米沢養護学校の実践について>

#### レポートタイトル「作業学習 高等部木工班 木製ベンチの製作と販売活動」

##### 1 実践にあたって

本校高等部では、週11時間の作業学習を設けている。作業学習では77名の生徒が木工班、縫製班、窯業班、石けん班、コーヒー班に分かれて活動している。本報告は、木工班の実践である。働く意欲や自信を高めるために2学期から製作だけでなく、宣伝や在庫管理など作業班の運営にも生徒が主体的に取り組むことを目指した実践である。

##### 2 活動より

2学期から生徒がより主体的に活動するために「ベンチショップ MOKU-MOKU」を立ち上げた。宣伝活動の一つとして、製品のカタログを新しく作った。生徒が製品名を考え、ベンチのカタログ用の写真を撮り、「お客様の声」を載せるなどアイデアを出し合って製作した。また、新色のベンチを発売した。ベンチの色は生徒が候補の中からタンネングリーンを選択した。塗装担当の生徒は、新色の塗料をお客様や他作業班の仲間に褒められ、「新色を塗りたい。」と作業前に教師に伝えるようになった。また、カタログの編集作業と塗装の双方を担当した生徒は、お客様に、木製ベンチとその塗料について自分で説明することができた。また販売活動では、カタログを手渡したり、新色の木製ベンチを宣伝したりして自分からお客様に話しかける姿が見られた。

##### 3 まとめ

本実践では、生徒のアイデアを生かしながら作業班の運営にも携わるようにしたことで、働く意欲や自信の向上につながった。